

続・ふるさとを こぼれ話

水橋の別れ

明治39年12月、青木繁と福田たねは幸彦を連れ、たねの実家を頼って水橋村に身を寄せた。年末に繁は単身、茨城県の加波山頂に向かった。

明治40年1月、繁は福田家の援助のもと、五行川西の黒崎家の一室を借りて「わだつみのいろこの宮」を作成した。3月、東京府勸業博覧会に出品するために上京した。繁はこれがたね、幸彦たちと永遠の別れになるとは思ってもいなかった。

別れたところは、たねの実家からほど近い、五行川の土橋の上である。たねはイーゼルを持ち、繁はキャンバスを背負い、幸彦を抱き、二人に別れ

を告げた。

「わだつみのいろこの宮」は博覧会で3等末席を受賞するも、繁は評価の低さに失意に沈んだ。

8月、父危篤の報により、急ぎ久留米へ帰るも、死に目に会うことはできなかつた。繁は再び上京する機会も失い、たね、幸彦に会うこともなく、明治44年3月、28歳の生涯を



▲たねの描いた「水橋の別れ」



▲五行橋欄干のレリーフ

閉じるまで九州で放浪していた。

後年、たねは繁と過ごした日々を絵に残しているが、その中に昭和35年に描かれた「水橋の別れ」がある。「水橋の別れ」はロマンの碑がある五行橋の欄干にレリーフで4枚あるが、方向が水戸方面を指しており、宇都宮方面を向いていないのが残念である。

第32回

生涯学習課総合情報館推進係
☎028 (677) 2525

編集後記

□AED(自動体外式除細動器)の使い方
を学びました。何となく心臓が止まったら
使うのかなと憶えていましたが、実は、どの
ように使う機械なのかよく理解していな
かつたのです。

□聞くことやるとでは大違い。機械の操作は
確かに簡単ですが、倒れた人に対して、意識
の有無、呼吸停止、心拍停止の状態を確認
してから使い始める…。なるほどと感心し
たのは、使い方より、機械を使うべき状況と
はいかなる時で、どのようにしてその状態を
確かめるかが難しいということでした。

■ふと気が付けば、テレビや携帯電話、身
の周りのたくさんさんの機械も、正しい使い方
をしているのだろうか?とまたしても悩む秋
です。
(まんとゆこ)



(L=45cm)
Aix galericulata
(小さな帽子を被った水禽類)

オシドリは「鶺鴒(えんおう)の契り」のことわざに例えられ、夫婦仲が良いとされるが、他のカモと同様に雌が子育てをする。

美しさで知られる中型のカモで、雄の容姿はとにかくカラフル。頭上は緑色で後頭部が紫赤褐色で長くて冠羽となるので、帽子を被ったよう。目のまわりは太く白色からクリーム色、頬から喉にかけて燈赤色の長い羽があり、三列風切(翼の付根)は銀杏羽と呼ばれる燈赤色の幅広い美しい羽がある。胸はブドウ色で、脇は黄褐色に白と黒色の横帯が入っている。雌は灰褐色で目の周りが白く、胸から腹部にかけて白い不規則な水玉模様がある。

繁殖地の観察では、雄が死亡するとすかさず別の固體が入り込んで、つがいを形成したのには驚いた。雌1羽に対して雄が2～3羽の割合で生活していることから、夫婦仲良く寄り添っていると感ずるのであろう。

渓流や林の中の湖に多いが、冬期は平地の溜池等に降りて来る。分類上は水面採餌ガモではないが、水面や地上の植物性の餌を摂り、特にドングリは大好物である。営巣は樹洞で行い、よく木に留まって眠っている姿を見る。

- 編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028 (677) 6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
- 発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- 芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
- 苦情専用フリーダイヤル
☎0120 (753) 898

☞芳賀町の携帯サイトはコチラから➔



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
ESPA：環境保護印刷推進協議会
http://www.espa.com